

「私たちがそばに」とメッセージ

自死防止に取り組む宗教者ら「京都いのちの日」に行進

宗教宗派を超え自死・自殺防止に取り組む宗教者などでつくる「『京都いのちの日』宗教者プロジェクト実行委員会」は3月1日、「LIFE WALK2019～いのちを想う宗教者の行進」を実施。各宗派の法衣を着けた僧侶など30人が「あなたとあなたの大切な人が少しでも心安らぐように私たちがそばにいます」などのメッセージボードを掲げながら、京都市の繁華街・河原町通や四条通など約3キロを歩き（写真）、市民や観光客らに自死・自殺の苦悩を抱える人々に思いを寄せ、積極的に向き合おうとする宗教者がいることをアピールした。また、行進に先立ち、中京区・天性寺（浄土宗）でトークセッションを行い、3人の僧侶が、それぞれの活動現場での体験などを踏まえ、発題した。



この取り組みは、京都府が自死・自殺対策のため2016年に3月1日を「京都いのちの日」と定めたことを受けて同年から始まり、4回目。宗派が支援するNPO法人京都自死・自殺相談センターSotto副代表の霍野廣由さん（本願寺派僧侶）が実行委員会代表をつとめ、本願寺派総合研究所が共催する。霍野さんは「共感してくれる宗教者は増えている。宗教者が自死・自殺防止のた

めにどんな活動をしているのかを一般の人たちに知っていただくことが今後の課題」と話す。

また、同研究所は、苦悩を抱えた人に向けたメッセージを掲載する小冊子「宗教者からのメッセージ4」を発刊、無料で配布している。巻末には同センターなど相談窓口の連絡先などを掲載する。問い合わせは同研究所☎075（371）9244。